歴史を歩く41

おおさきの歴史を旅してみませんか⑦

～古代中世の海上交流の拠点（横瀬・益丸地区）～③

⑨ 薬丸弾正兼持の墓

肝付兼続の武将で竜相城主。弘治２年（1556年）の戦ケ島の戦いにおいて大野出羽守との一騎打ちで戦死した。

戦ケ島の戦いは、肝付町高山を拠点とする肝付氏と宮崎県串間および日南を拠点とする豊州島津氏との大隅半島勢力争いの中で起こった戦いである。この地域は海上交通の要所を担う重要な場所で、肝付氏にとっては勢力の維持・拡大を図るうえで死守しなければならない場所であった。

⑩ 綿打川

田原川下流域を指す名称。『大崎名勝誌』では、天文23年(1554年)と弘治２年(1556年)に起こった『戦ケ島の戦い』で戦死した兵士の亡骸が川を堰きとめたことから『腸打川』と言われるようになったと記されている。

一方で『わたうち』を『綿津宇治』と解釈して海を司るワタツミ神との関連を指摘する説もある。

⑪ 竜相城・旧大崎城

竜相城については築城時期は不明であるが、鎌倉時代と推定される。当初は台地南部分に本丸があったとされ、『井出田城』と呼ばれていた。その後台地東側に中心が移り、『竜相城』となる。南北朝時代は楡井氏の城となった。

文明６年（1474年）に高山の本家と断絶した肝付兼光が、竜相城本丸の北側に中心を置いて、『大崎城』を築城した。肝付兼光没後に子の兼固は現在の霧島市溝辺に領地を移し、変わって新納氏が城主となる。

その後、天文８年（1539年）に新納氏を攻め落とした高山城主 肝付兼続が治めた。

⑫ 神領古墳群（神領10号墳）

▲盾持人埴輪

▲10号墳の埋葬施設内石棺

田原川と持留川に挟まれた舌状台地上に４基の前方後円墳と９基の円墳が点在する。うち神領10号墳は平成19年～21年度に鹿児島大学総合研究博物館によって発掘調査がなされ、墳長約60ｍ級の中級クラスの前方後円墳であることが分かった。

発掘調査では盾持人埴輪や多量の初期須恵器、鉄製の武具が出土した。横瀬古墳と同時期の古墳で、横瀬古墳の被葬者と関連し、かつヤマト政権と深くつながっていた人物の墓と考えられている。５世紀前半には、横瀬地域で一大勢力が形成されていたことを示す貴重な史跡である。

※資料所蔵・写真提供：鹿児島大学総合研究博物館

⑬ 大隅大崎駅跡

昭和10年に串良～大崎～志布志間の古江線（昭和47年に『大隅線』に改称）が開通。昭和62年に国鉄民営化により全線廃止となる。